

「不易流行」

「よき伝統を守りながら(不易) 進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、「理想」を創造する」

住民と行政で創る協働の町

この原稿が読まれている頃は、すでに3月の定例町議会が開催されていると思います。来年度の当初予算が審議されるこの議会で、私から行政方針を発表させていただいています。昨年度から町のホームページで全文を読むことも、動画を見ることもできます。その中で私が一番言いたかったことは、平成30年度は「協働のまちづくり」を重点に目指しているということです。これは平成37年度までの町政推進の長期的・総合的な指針である「江府町未来計画」にも位置づけられているもので、住民満足度の高いサービスを提供するため、「協働」すなわち、住民と行政が目標を共有し、ともに力を合わせて活動するという意味があります。

そのために必要なことは、私を含め職員が住民の皆さんの声をしっかりと聞き、理解し、何が問題なのかを的確に把握すること。そして、その解決方法を考え、案として議会や住民の皆さんにお示しすることだと思えます。予算や法令、対立する利害の調整等、様々な制約があり、すべての皆さんが満足できる結果にはならないかもしれませんが、しっかりと意見交換をし、相互理解をしながら、住みやすい町にするよう一つひとつの事業を実施していきます。

来年度は、本年度実施した集落総合点検のアンケート結果を持って、各集落に出かけさせていただきま



▲住民と行政でともに力を合わせましょう!

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム報告

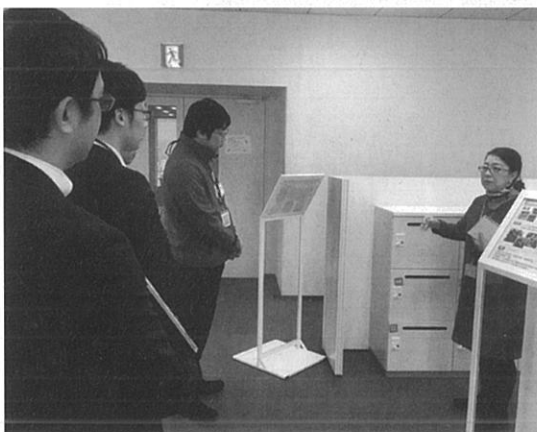
今回はいつもと視点を変えて、職員が働きやすい職場にするにはどういったことが必要なのかを学ぶためにプロジェクトチームで企業見学に行きました。

見学したのは大阪市内に拠点を持つ大手事務機商社です。この会社も過去に事業所の移転を経験されており、その際にはコストダウンをテーマに取り組まれたそうです。見学した際に感じたのは事務スペースが整然としており、とにかくすっきりしているということでした。ですがその反面、殺風景で息が詰まるような印象も受けました。

それもそのはず実際に働いている社員も同じ気持ちだったようで「仕事に集中できない」「無機質で落ち着かない」などの意見が出てきたそうです。「コストダウンを目指したオフィスづくり」は「働きやすい職場」とはならないということでした。この現状を踏まえ、職員有志による委員会、働き方のアンケートを実施されたそうです。こういった

社員からの声を拾い上げ、リラックasできる多目的スペース、集中して仕事ができるように壁で仕切られた個人スペースの机を設置するなどの改善策が実行されたそうです。

すべてのことは伝えきれませんが、一番印象に残ったのが会社案内をしていただいた社員の方が言われた「移転は働き方を変える最大のチャンス」という言葉でした。この機会を好機ととらえて、職員が元気でいきいきと働ける職場を目指していきたいと思えます。



▲オフィスの特徴について説明を受けました

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。